

## 大使からの活動報告<2014年1月後半>

(青年協力隊員派遣 25 周年他)

2014年1月30日  
在グアテマラ大使(川原)

当大使館の活動の一部を、以下ご案内致します。

### ◆グアテマラの企画庁長官との懇談

1月下旬、カテリーナ・パリジャ長官とお会いする機会がありました。昨年4月から策定中の「Katun2032」という今後20年間にわたるグアテマラ国家統合開発プラン(今年4月に公表予定)などについて意見交換しました。この統合開発プラン策定のため、地方政府との政策会議、官民有識者で構成される国家開発諮問会議(コナドール)などと数百回の会議を重ねており、貧困緩和、そのための地方開発と今後人口流入により急増する都市とのバランスのとれた開発計画の重要性などについて伺いました。



### ◆保健大臣との懇談



1月22日、ビジャビセンシオ大臣とお会いし、目下の重要課題についてお伺いしました。

日本は、当国でのオンコセルカ(ロブレス病)やシャーガス病の研究対策プロジェクト、栄養改善プロジェクト、母親と子供の健康プロジェクトなどの分野で、地道にかつ着実に成果をあげており、大臣から、日本のこれまでの暖かい支援に対する感謝の言葉がありました。シャーガス病対策については、グアテマラを手始めに2002年から日本が独自に取り組んできており、患者発生率が劇的に低下しており、中米地域保健機構から、顕著な貢献を認められています。今年3月には、日本の中米地域シャーガス病対策アドバイザーが、優れた取組み実例(グッド・プラクティス)を冊子にとりまとめて保健大臣に贈呈できるよう準備を進めている旨お伝えしたところ、大変に素晴らしい、今後、当国国民に広く普及できるようにしたいとの御発言がありました。

### ◆AUTOMAQ(クボタ建機販売企業)開所式



1月21日、クボタ建機のデモンストレーションを兼ねた開所式がグアテマラ市内であり、地元TVの取材もありました。同開所式にクボタ本社建機マーケティング部の田口一哉グループ長、住友機電貿易の伊藤史朗取締役等が御参加されました。エドワルド・ジャアール社長によれば、ホンジュラスで50年以上、また、



グアテマラでも35年前から、いすゞトラック販売(AUTOCOM ISUZU)で活躍していた実績があり、今回、住友商事の仲介により、クボタの建機(小型掘削機)のグアテマラでの販売準備が進められました。これまで日本からトラックの部品を輸入・組立て販売をしており、日本流ビジネスに明るいのが、今回の販売会社設立が迅速に進んだ理由と関係者からお聞きしました。

同社では、3トンから5トンの建機を販売していく予定と。建機を稼働するところを見せてもらいましたところ、稼働中の音が静かで、軽いタッチで運転操作ができる様子がありました。建機販売後の顧客へのアフターケアを重視しており、同社の整備士訓練を日本で受けさせるなど周到に準備を進めておられた様子でした。サトウキビ畑、バナナやパーム栽培農場、道路工事現場など多岐な用途に利用される予定です。

### ◆青年協力隊員グアテマラ派遣 25 周年

1月23日、グアテマラ市内で青年協力隊員(JOCV)の派遣25周年を祝う式典がありました。1989年の第一回目の隊員派遣から25年という記念すべき年を迎えました(←



左写真:25周年式典の冒頭風景)。

保健・教育・スポーツ・農業・観光・環境・考古学など多岐にわたる分野で、これまで604名の隊員が、グアテマラで、草の根レベルで派遣され、地域住民の人達、地方自治体やNGO関係者の方々と「共に歩む」姿勢に対して、当国から

高い評価と感謝の声が多く寄せられております。

この式典では、派遣中の隊員達が、自らの活動内容を紹介するためパワーポイントを使用して、見事なプレゼン(右側の写真⇒)を行い、大変に好評でした。



青年協力隊員が関与した活動で、具体的成果が上がった例は数多くあります。例えば、シャーガス病への取組みにより、感染者数が激減したこと、また、小学校の算数教科書の編纂・導入を実施し、学校教師への指導により、小学児童の算数能力が飛躍的に向上したこと、などが挙げられます。協力隊員が今後も大いに活躍をして、グアテマラの発展にさらに貢献することを期待しております。



(左下側の写真: 帰国予定隊員と企画調整員、右側写真: 協力隊員・専門家全員との懇談終了後の記念撮影)



### ◆グアテマラ中央銀行総裁との懇談

1月下旬、バルキン中央銀行総裁(右写真の方)にお会いし、お話を伺いました。同総裁は IMF 東京年次総会に出席したことがありますが、京都など歴史ある地方を視察する機会がなかったのが残念でした、との御発言がありました。グアテマラが抱える重要課題として、



あり、税制改革を推進して、実を挙げることが課題であること、健全財政を維持し、物価上昇率を現在の4%程度で安定的に維持することを最重視している、また、当国からの輸出が堅調で、為替レートの安定を維持していること、今年の成長率としては、3%台後半を目標としていること、国内的に貧困層が大きな社会問題であることから、地方での経済振興を図るための措置を議会へ提案していると同いました。(左上写真:壁面に特徴がある中銀の建物全景)



### ◆教育大臣との懇談

1月23日、アギラ教育大臣(左写真)にお会いし、当国の教育事情など伺いました。大臣から、日本の長年の協力に対して感謝しています、日本政府から小学校算数教科書の作成を支援頂いた、現在、日本政府の技術協力を議会通じて子供達が遊びながら、算数を学べるプログラム(Contemos Juntos)を支援頂



いているとのご発言がありました。また、小学校で90%、中学校で4割弱である就学率の向上を図るとともに、国語・算数・外国語・テクノロジー利用に関する子供の能力開発に向けた教育の質改善が課題とお話がありました。

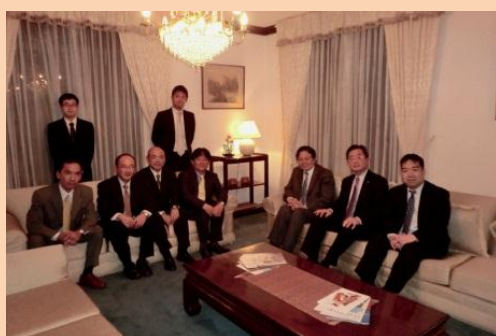
### ■農牧大臣への表敬及び懇談

農牧省を訪問して、ロペス農牧大臣(左写真)にもお会いしました。大臣からは、目下の優先課題として、地方における家族農業の生産性向上と競争力ある農産品の国際市場への輸出拡大、生産拡大のための灌漑施設、緊急時の食料供給確保・配給体制の見直しなどを進めていると同いました。当方より



は、日本は技術協力の中で、当国でも高原野菜の栽培指導、専門家派遣などで農業普及のための人材育成を支援してきており、今後、農業分野での訪日研修制度の利用についての御要望や食料増産援助見返り資金を利用した意欲的な事業活動提案があれば、喜んで検討させて頂きたいと、お話し申し上げました。

#### ◆地熱発電関係日本企業の当地訪問



当国での地熱発電等セミナーに出席するため、1月27日、東芝(電力システム社藤田豊明理事他)関係者及びJBIC(株式会社国際協力銀行)佐々木・メキシコ首席駐在員の方々が御来訪され、懇談する機会がありました。同社は、地熱発電、小水力発電などで高い技術と豊富な経験を有しており、当国政府関係機関との有意義な懇談ができたとの御報告がありました。今後の取り組みが注目されます。

#### ■ロペス国防大臣との懇談

1月29日、ロペス国防大臣に市内にある国防省大臣室でお会い致しました。30年以上の輝かしい軍歴をお持ちですが、19歳長女をはじめ3人のお子さんをお持ちの若き大臣でもあります。



主な活躍分野として、治安面で警察を支援すること、災害等緊急時の出動、アフリカへ国連PKOを派遣中であると伺いました。日本も同じくアフリカ、そしてインド洋で活躍していること、世界各国で起る大災害時の救

助のための国際緊急援助隊の活躍について、当方より述べたところ、2012年のグアテマラ地震の際に、日本から緊急支援物資の提供があり、大変に感謝しているとの御発言もありました。

(了)